

3. アルバイト

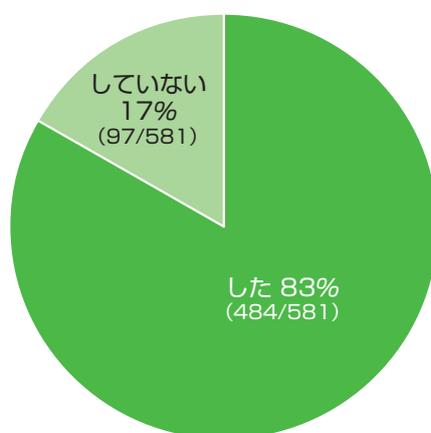
(1) 過去1年間のアルバイト経験

問56. あなたは最近1年間にアルバイトをしましたか。

【現状】

全体としては、何らかのアルバイトを経験した学生が83%を占めており、平成18年度調査（77.6%）と比較してやや上昇しています。学部別にみると、工学部でアルバイト経験者の割合が72%と低く、教育学部、法学部、経済学部、医学部看護学科では90%を超えて高くなっています。こうした傾向は2年前と基本的に同様ですが、法学部については、75.5%から94%へと大幅に上昇しています。ただし、調査サンプルの数も大きく異なるので（18年度98人、20年度52人）、実態をどれだけ反映しているか判断しにくいところがあります。

〈グラフ56〉



(2) アルバイトの主な職種

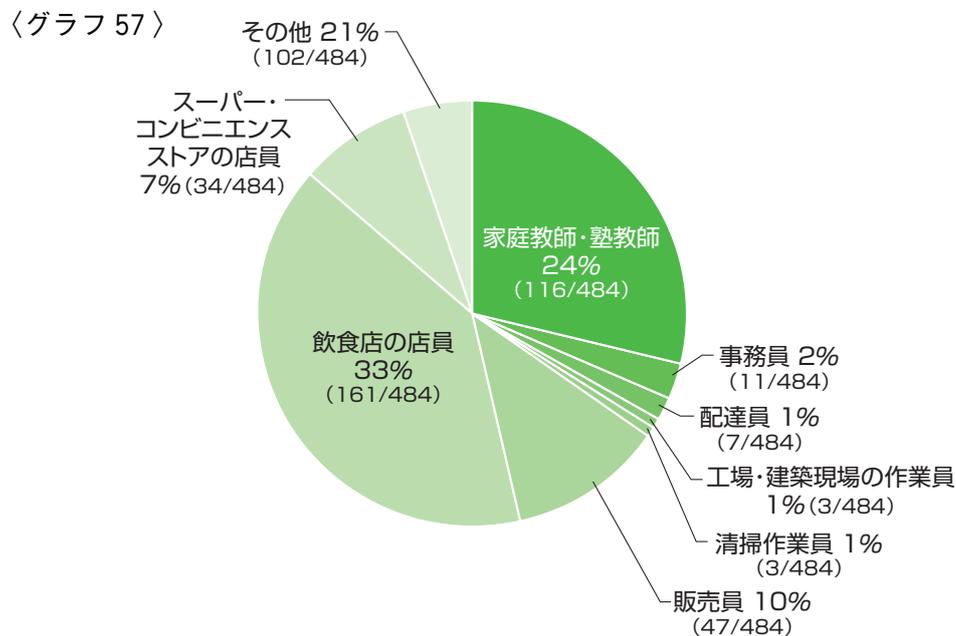
問 57. あなたが従事した主なアルバイトを、次のうちから一つ選んで教えてください。

[最近1年間にアルバイトした人のみ回答してください]

【現状】

全体としてみると、「飲食店の店員」が33%で第1位であり、続いて「家庭教師・塾教師」が第2位となっていて、この二つが代表的なアルバイトの職種となっています。これは、前回調査とほぼ同じ傾向です。

学部別にみると、医学部医学科で「家庭教師・塾教師」の割合が高く56%に上りますが、経済学部で11%と低くなっています。「飲食店の店員」の割合が高いのは、医学部看護学科で50%を占め、農学部43%、教育学部42%が続きます。



(3) アルバイト収入の用途

問 58. アルバイト収入の主な用途は何ですか。次のうちから一つ選んで答えてください。

[最近1年間にアルバイトした人のみ回答してください]

[1] 現状

「生活費」と「教養・娯楽費」が二大用途となっていることは、前回調査と同じですが、割合はちょうど逆になりました。すなわち、前回調査では「生活費」が28.7%、「教養・娯楽費」が43%でしたが、今回調査ではそれぞれ42%、25%となっています。

学部別にみると、法学部、経済学部で「生活費」と答えた学生が50%を超え、農学部でもほぼ半数を占めています。また、法学部、農学部では、「学費」という回答がそれぞれ16%、11%と高くなっており、近年見られなかった傾向を示しています。

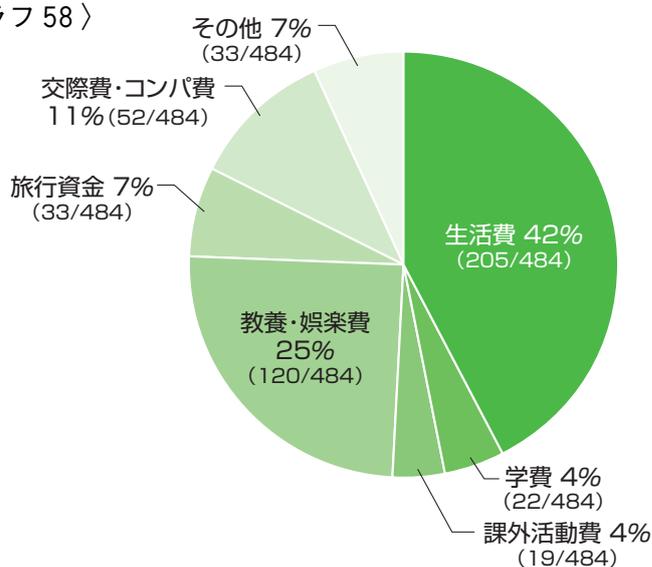
[2] 課題 (問題点)

前回調査と比較して、増加が目立つのは「生活費」と、割合は低いものの「学費」です。この二つの費目は圧縮が難しく、その意味で「必要に迫られて」アルバイトをしている学生が増えていると見ることができるでしょう。そうしたアルバイトは、場合によっては、学業に充てるべき時間のエネルギーを吸収することもあると考えられます。

[3] 対応

学生に対する経済的支援措置、たとえば学費の減免や奨学金の拡充が考えられます。

〈グラフ 58〉



(4) アルバイトに費やす時間

問 59. アルバイトに費やす時間はどれくらいですか。(通勤時間を含め、1週間当たりの平均)
[最近1年間にアルバイトした人のみ回答してください]

[1] 現状

1週間当たりの平均のアルバイトの時間は、「2～10時間未満」が41%と最も多く、「10～20時間未満」が36%でそれに続いています。この順番自体は前回調査と同じですが、割合は変わってきています。すなわち、「2～10時間未満」が10%減少し、「10～20時間未満」が9%増加しました。「20時間以上」という回答が倍増(7.9%から16%)したと合わせて、前回調査時点よりさらに長時間化していると見て間違いのないと思われます。

学部別にみると、医学部医学科でアルバイト時間の短い傾向が顕著です。他の学部はほぼ似たような傾向を示していますが、農学部で「20時間以上」とする回答の割合が、比較的高くなっています。

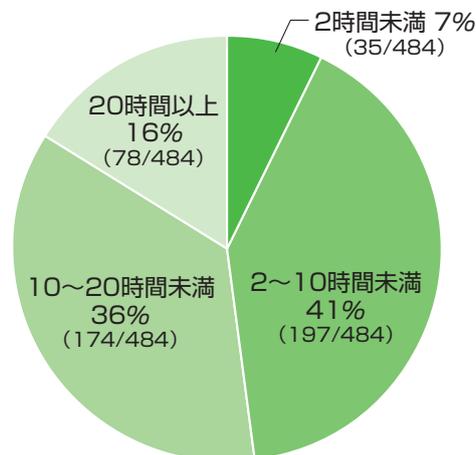
[2] 課題(問題点)

1週間当たりのアルバイト時間は、学業への取り組みに影響を与える可能性があるため、その長時間化は問題です。しかも、この傾向は前回調査でも指摘されており、今回一層深刻化していることが示されたと考えられます。なお、次の質問で、学業との関係についての学生の自己評価を聞いていますが、その回答とは別に客観的には、やはり問題と考えるべきでしょう。

[3] 対応

学生のアルバイト時間を削減するための対応は、前の項目で指摘した経済的支援が有効と考えられます。

〈グラフ 59〉



(5) アルバイトと学業の関係

問 60. アルバイトと学業の関係はどうでしたか。(複数回答可)

[最近1年間にアルバイトした人のみ回答してください]

[1] 現状

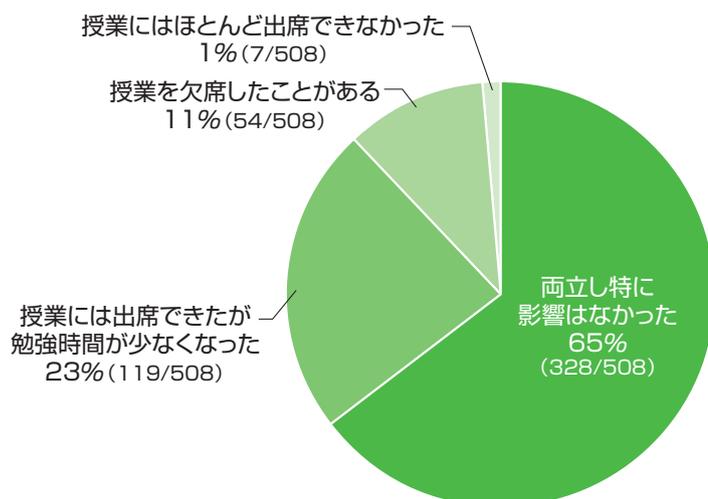
アルバイト収入の使途や週当たりのアルバイト時間の変化にもかかわらず、その学業との関係についての回答は、前回調査とほぼ同じ結果になりました。細かく見ると、「両立し特に影響はなかった」とする割合は全く同じですが、「授業には出席できたが勉強時間が少なくなった」という回答が5%減少しています。

学部別にみると、「両立し特に影響はなかった」とする回答が医学部医学科で高く、逆に経済学部はやや低くなっています。

[2] 課題 (問題点)

学業への影響についての回答は前回調査とあまり変わっていませんが、これはあくまで自己評価なので、問題がないと即断することはできないと思われます。

〈グラフ 60〉



(6) アルバイトを選ぶ基準

問 61. あなたがアルバイトをしたとき、何を基準にして仕事を選びましたか。

次のうちから一つ選んで教えてください。

[最近1年間にアルバイトした人のみ回答してください]

【現状】

アルバイトを選ぶ基準としては、「給料が良いこと」の割合が23%で最も高く、さらに、「社会の現実や人間関係を学ぶ機会が多いこと」が20%で続いています。それら以外にも、9～12%の回答があり、多様な観点でアルバイトを選択していることが窺われます。

学部別では、医学部で「給料が良いこと」の回答の割合が高く、特に看護学科では45%に上ります。「社会の現実や人間関係を学ぶ機会が多いこと」という回答は、学部間のばらつきがありません。

〈グラフ 61〉

